

白色葉腐病

病原菌

Rhizoctonia solani AG-2-1

病徴

収穫株（1番にら）でのみ発生する。はじめ萌芽遅延を起こす。やがて葉身先端部が白色となり，葉身全体が屈曲した葉が萌芽してくる。発病した一番にらを刈り取り，萌芽してくる二番にらで発生することはない。



発病株の萌芽遅延



発病株の葉先の腐敗

発生時期

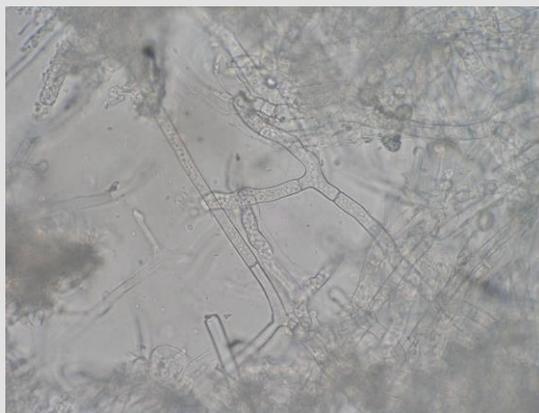
3月

発生好適環境

圃場の排水不良部分、低温

診断方法

罹病組織を顕微鏡観察すると *Rhizoctonia* 属菌の菌糸が容易に確認できる。菌糸は幅 $6 \sim 10 \mu\text{m}$ で、分岐を有し、分岐部でくびれ、分岐部付近に隔壁を形成する。胞子は形成しない。



病原菌の菌糸